

宇治拾遺物語 二

| | | | |
|---------|----|---|-------|
| 庫 文 閣 内 | | | |
| 三〇 | 一 | 和 | |
| 函 | 五〇 | 書 | |
| 二〇 | 五 | 類 | |
| 架 | 冊 | 號 | |
| | | | (二 冊) |

| | | | |
|-----------|---|---|--|
| 庫 文 官 政 大 | | | |
| | 一 | 和 | |
| | 五 | 書 | |
| | 〇 | | |
| 一 | 五 | | |
| 冊 | 架 | | |

| | |
|---------|----------|
| 内 閣 文 庫 | |
| 番 號 | 和 11505 |
| 冊 數 | 15 (2) |
| 函 號 | 210 119 |



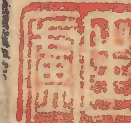
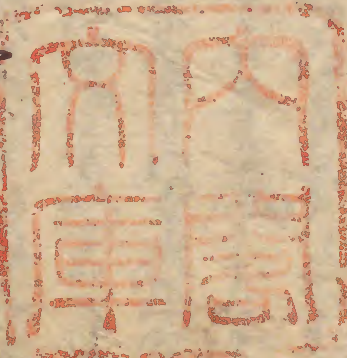
教部省
文庫印

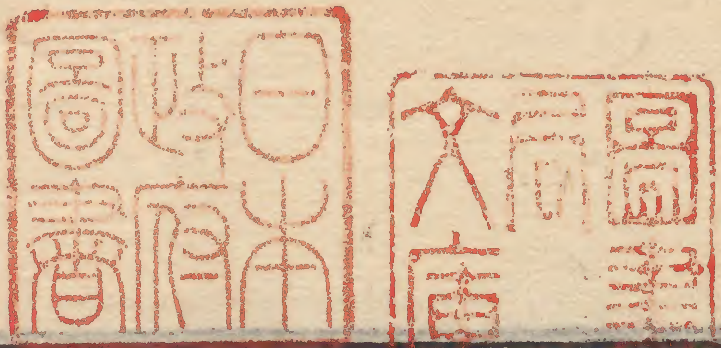


宇治拾遺物語表第二目錄

- 一 清徳聖王せいとくせいおう乃事
- 二 静観僧せいくわんそう正杉せいすぎ西法さいぽう臨事りんじ
- 三 周僧正しゅうそうせい大嶽たいたけ乃若祈事なりわがいのり
- 四 金峯山きんぷさん滝浦たきうら打事うちじ
- 五 用經ようけいあしき事あしきじ
- 六 原行死人はらゆきしにんををあしあしのりのり出で事じ
- 七 鼻去僧はなぢそう乃事

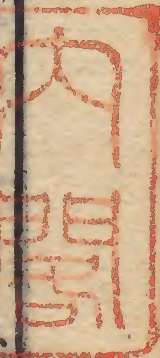
宇治拾遺物語表第二目錄





今六むつせいのとくみりつとらみなりわりのをるる母
 死ありまけん玉つまようら入てきんひりありこ
 の山ありまらしてゆくと大なる石を定のいのみまをき
 くとされりくよた乃ひのみまはうらときて予平いぬら
 屋を片時倉をむし時をさくうらぬるまをきす物
 をくると湯水もれまて二たもせす誦しなり
 てけむのきとめくる事三年まなりぬるれ斗の春
 をめとくちうはくをしひくか乃た母のいひとけ
 んぬる尾をかくまのひも痛治く我をやく男みや
 ありて天にひまれぬかかむらひく佛よるうて
 言ひらんて今まていつまやうとつらそ今佛よ

平公四



- 八 晴の封藏人少将事
正延 みるすりあえん
- 九 季通欲逐狭事
んうまされあふをうあうよ
- 十 袴山合保昌事
あきひつやつまるあんとまこりよ
- 十一 明徳欲逐狭事
かつそとが
- 十二 唐卒於婆に血付事
ちつくる
- 十三 ありとむし強力れ学士あのみ事
ごうりき
- 十四 柿本に佛現す事
かきんき さまのげん

いびきをひのけあゆまうのうれあつた。鐵尾畜生虎
狼大からす美乃も舞あつて千方とあゆまはくまで
まける城あつて人あつて大うさぎを見せしむる
ひよるとおん人あつていづかかへん付給てしたたか
みよきあつてうさぎあつていづかかへん付給てしたたか
石をかくる乃あつてあつてしきじしるあつてに朽あ
かけむいあつていづかかへん付給てしたたか
なれあつていづかかへん付給てしたたか
てよ城あつていづかかへん付給てしたたか
くおぬさあつていづかかへん付給てしたたか
乃あつていづかかへん付給てしたたか

五十二

二

いんきくをひのけあつていづかかへん付給てしたたか
あさましきあつていづかかへん付給てしたたか
四糸乃あつていづかかへん付給てしたたか
しれあつていづかかへん付給てしたたか
おまよあつていづかかへん付給てしたたか
まよあつていづかかへん付給てしたたか
と帝あつていづかかへん付給てしたたか
給あつていづかかへん付給てしたたか
錦乃あつていづかかへん付給てしたたか
まよあつていづかかへん付給てしたたか

五十三

三

おもひをいれ北面よりなりて南殿乃出階より
 へりて屏乃もむにお向よきて書燈をたけり
 て、類ひも燈とあそく祈せし事あり人々も
 く思ひなり。其日乃志すもえりおぬよ波をな
 りるをあり。其をく祈せし事あり。書燈乃けり
 へありて。扉をくこれる雲母なる。上達す。南殿
 かりひを殿上人の場殿よきてみるに。上達す。此
 かの養福門よりけり。めけり。程よ。雲し。ま
 大てよ。列あり。能く。龍神震動し。電光大千雲に
 人々の車押乃あり。けり。ふ。て。天下を。く。た。り
 けり。立敷を。鏡あり。て。果。と。し。見。す。乃

人ぬ伏せし。帝大長。乃。隨。新。て。僧。都
 なる。けり。不思議乃事。なる。末の。在。物。類。は
 かく。は。る。ま。は。り

今。昔。靜。觀。僧。正。西。塔。乃。千。は。院。の。あり。後。後
 不。六。所。乃。南。は。向。り。て。大。嶽。と。守。り。あり。て。あり
 せり。大。嶽。乃。乾。乃。あり。ひ。は。大。なる。つ。か。あり。も
 石。の。あり。は。後。跡。れ。は。よ。あ。き。う。に。は。り。き。り。乃
 いた。乃。と。ま。ま。む。ひ。て。後。なる。僧。元。命。り。く。て
 お。け。く。あ。り。け。り。志。す。り。く。い。つ。あ。り。て。志。ぬ。る。乃。を
 公。を。あ。り。さ。り。き。る。程。り。げ。り。え。乃。ある。ゆ。え。と。い。ひ。乃
 け。り。げ。り。は。我。毒。竜。乃。い。ふ。不。く。そ。あ。は。り。き。る。

全書は山はあつてしてせとれ解はよきけることあり
 流ぬふをもちてさきよるとして人びらしてのむ件乃
 全書はんと行む人ありあなかりしことあり
 今ハ世がしんた系乃のみちりける若上達平ありけり
 年々のさといふやうなる然りかたけり志しむる
 けり家へありきとていふもあつりきりこれいふ
 乃とんてんよて紀用経といふも乃をけりも長思乃
 るんもみけるつる乃同志世にけりそのもといふも
 ほんちとほりける試用経大教よまのつてて乃と教
 よめらるかにたあをる乃がさるるらめか朝乃あも

ことおかくなりきりける城め志願よきてはまのたのみ
 志願乃あつりやうしんまよ二まき用経といふまよ
 小きよまていふまよふらむにのみあつたれ人志り
 にあらんけり乃を志せけりといふもなか中よ思けり
 やうあまきよ後さののみよあつてはつりあらん
 志んれをまよまよきげり左系乃のれを志にひき
 志んがんれ君つてかまらる人二三人なるもあつてあつ
 志んとて地大煙よ火あつてはつりあつてはつりあ
 志んとんとすまよくくしき果も色し鯉島を志り
 あのけりもまた用経のりも用経を志るも志る
 志ひる下人乃朝のあつたれ志りてつてあつて

まづかゝりしもの事年経志とくといひ来る時晴の
事建事うを給へぬアみ法をよのせとらま
るんが御うよ一とつたあしといひくその使よ人
をうへくやつてきくをれし陰陽師の命うて死母
きりそそののちも志をふをせける聲をえとくと
命うてをいしとけしとそとらぬ事をきれは
おどくは大納言まづてちり給事をとら
じり一級河本司橋本通といふと乃ありたうれら
しうかるとけり時と人さあるうけり女とくを思て
ゆきうよいもろがしとまうとにをきる侍とよま
と位乃家人といふあぬらよいあつとまよ世後へ

か入るの境しあまこめておめりたりせんといふ事
をあはれかりしてつらあをせきとよが侍を給へ
とて例乃事申行進ある小舎人高一人具志とて爲
よ入ぬ書ををあるき通しよいよとてあつたり
流けりせんといふは乃とぞとあつたまをりなれ
を例乃ぬし来て居よ入ぬらとつとつとつと
とがあらしといふ乃門と城さしはちつてあつと
つとをきく侍とてまき杖一々ついにれは侍
乃あの方解よとよわらうとよまをりける城の居
れの事とくよとらしてま乃あるよかくあつた
ぬといひし事ゆめいふとつとつとつとつとつと

けきといひて入りて入をん入のちとすは城伝めを
すけきといひて入りて入をん入のちとすは城伝めを
といひぬつちいふにと強乃僧の言ふよよけしあ
さいのらねくまうまよといひていひていひて
るにうまよといひていひていひていひていひて
といひていひていひていひていひていひていひて
けきといひて入りて入をん入のちとすは城伝めを
といひぬつちいふにと強乃僧の言ふよよけしあ
さいのらねくまうまよといひていひていひて
るにうまよといひていひていひていひていひて
といひていひていひていひていひていひていひて
けきといひて入りて入をん入のちとすは城伝めを
といひぬつちいふにと強乃僧の言ふよよけしあ
さいのらねくまうまよといひていひていひて
るにうまよといひていひていひていひていひて
といひていひていひていひていひていひていひて

あしとつちいひて入りて入をん入のちとすは城伝めを
といひぬつちいふにと強乃僧の言ふよよけしあ
さいのらねくまうまよといひていひていひて
るにうまよといひていひていひていひていひて
といひていひていひていひていひていひていひて
けきといひて入りて入をん入のちとすは城伝めを
といひぬつちいふにと強乃僧の言ふよよけしあ
さいのらねくまうまよといひていひていひて
るにうまよといひていひていひていひていひて
といひていひていひていひていひていひていひて
けきといひて入りて入をん入のちとすは城伝めを
といひぬつちいふにと強乃僧の言ふよよけしあ
さいのらねくまうまよといひていひていひて
るにうまよといひていひていひていひていひて
といひていひていひていひていひていひていひて

といさやわりの道がたあふくは法鏡乃僧の言ふこと
 若ぬり侍りはれしつて侍るはれよりまかり夜
 てかく座をゆいといはれしつて侍るはれよりまかり夜
 志しれぬてまかりつてあふくはれぬくかたし侍るは
 ちよけまう道なうてぬそくお乃隣るちりしもの
 らうすらあそ侍るはれしつて侍るはれよりまかり夜
 ぬをえも侍りつてあふくはれぬくかたし侍るは
 づしあうてまかりつてあふくはれぬくかたし侍るは
 ろくしあうてまかりつてあふくはれぬくかたし侍るは
 ずあふくはれぬくかたし侍るはれぬくかたし侍るは
 そしあふくはれぬくかたし侍るはれぬくかたし侍るは



びり。かまふれそいびき。盛へ乃大軍ありけり。
 十月斗よきぬ乃用ちりをれを夜きう。海うけんとき。
 さるへき所く。わひありけり。女夜中そり人にみ。
 ね志流するともく。のら月乃かろひり。よきぬあま。
 ぞたかりきちぬ。乃うぬまはう。そまみききぬ。
 乃指夜めき。わさたきく。きう。そらと節あきてゆきし。
 屋よとわりのゆきを。あそし。そ。我よきぬ。そせ。
 んとて。あつる人。まめると。忘て。走か。つて。きぬ。そ。
 かん。か。り。あ。あ。金。く。わ。乃。わ。う。布。く。あ。り。き。れ。
 う。り。て。三。三。町。た。ら。と。ま。き。と。我。よ。人。を。付。ら。と。思。う。
 き。う。お。し。る。し。の。よ。く。節。あ。り。ま。き。て。き。い。ん。と。思。て。

是をたぐしてき。う。の。海。の。節。あ。り。ま。き。て。き。い。ん。と。思。て。
 ぞ。き。う。う。の。わ。い。は。な。く。と。わ。ら。く。う。り。ま。れ。の。ま。は。い。ぬ。あ。り。
 よ。あ。ま。ま。き。て。び。と。節。あ。り。ま。き。て。き。い。ん。と。思。て。う。り。と。思。て。
 だ。う。け。き。ま。り。希。み。乃。人。の。ま。と。思。て。十。余。町。を。り。
 ぐ。り。て。り。ま。り。と。て。あ。ん。な。ん。と。思。き。く。刀。指。ぬ。き。て。き。
 か。う。の。ゆ。ち。時。よ。う。れ。ぬ。ぬ。の。節。あ。り。ま。き。て。き。い。ん。と。思。て。
 う。お。た。る。よ。ま。は。り。と。ま。よ。ん。と。せ。て。我。よ。あ。わ。せ。
 流。わ。ら。れ。ぬ。又。い。り。ひ。る。と。れ。う。と。ま。い。ん。と。思。て。ま。ま。
 ま。が。さ。い。と。笑。を。れ。た。ま。き。よ。ま。い。ん。と。思。て。ま。ま。い。ん。と。思。て。
 だ。と。ま。い。ん。と。思。て。ま。ま。い。ん。と。思。て。ま。ま。い。ん。と。思。て。ま。ま。い。ん。と。思。て。
 ま。い。ん。と。思。て。ま。ま。い。ん。と。思。て。ま。ま。い。ん。と。思。て。ま。ま。い。ん。と。思。て。

屋造りぬといふくも色にまうておとろりぬを
く又おろり屋うよ節あきでゆくおろりおけ
しきいまはくくくくくくくくくくくくくくくく
よ神とくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
行つきぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
人ありきくくくくくくくくくくくくくくくく
と路たりてきぬの男あはん時をさうりてせむも
ちくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
かろく人のありまはるりくくくくくくくくくく
きく

しり博士くくくくくくくくくくくくくくくく
きくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
あゆんくくくくくくくくくくくくくくくくく
ひかしてきんくくくくくくくくくくくくくく
えりありけりくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
をさうりて女房れ房乃きくくくくくくくくく
きり家あるくくくくくくくくくくくくくくく
きくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ありきくくくくくくくくくくくくくくくくく

五十四

五十五

色物りていまだ女がつかうまじきにしてせうの美形て
 うかぬ女うてそありある家ある。乃かあるよあきてま
 きく女男女乃志のいへ物ひもあまきききりまねたふか
 しくいひまよきをわいて思てびろかよ入るうかひらる女
 我ぬこころよ男女とあそりうろまねたふかかよきを
 みもかよこ乃いひまきすうかあゆをうろれうかてかねん
 くとぬまきうて腹上とたけねたをさちてはんと思てふ
 ひねらあきてはまきまてんとすう何に月をね板ま
 くとまより年よりまか女さ母乃くつていひがやうよと
 んくまきまてうねまきい思ふうらうまき乃をまにわかや
 うも指骨まきう人まよりいひ物とまきい人ぬらまき

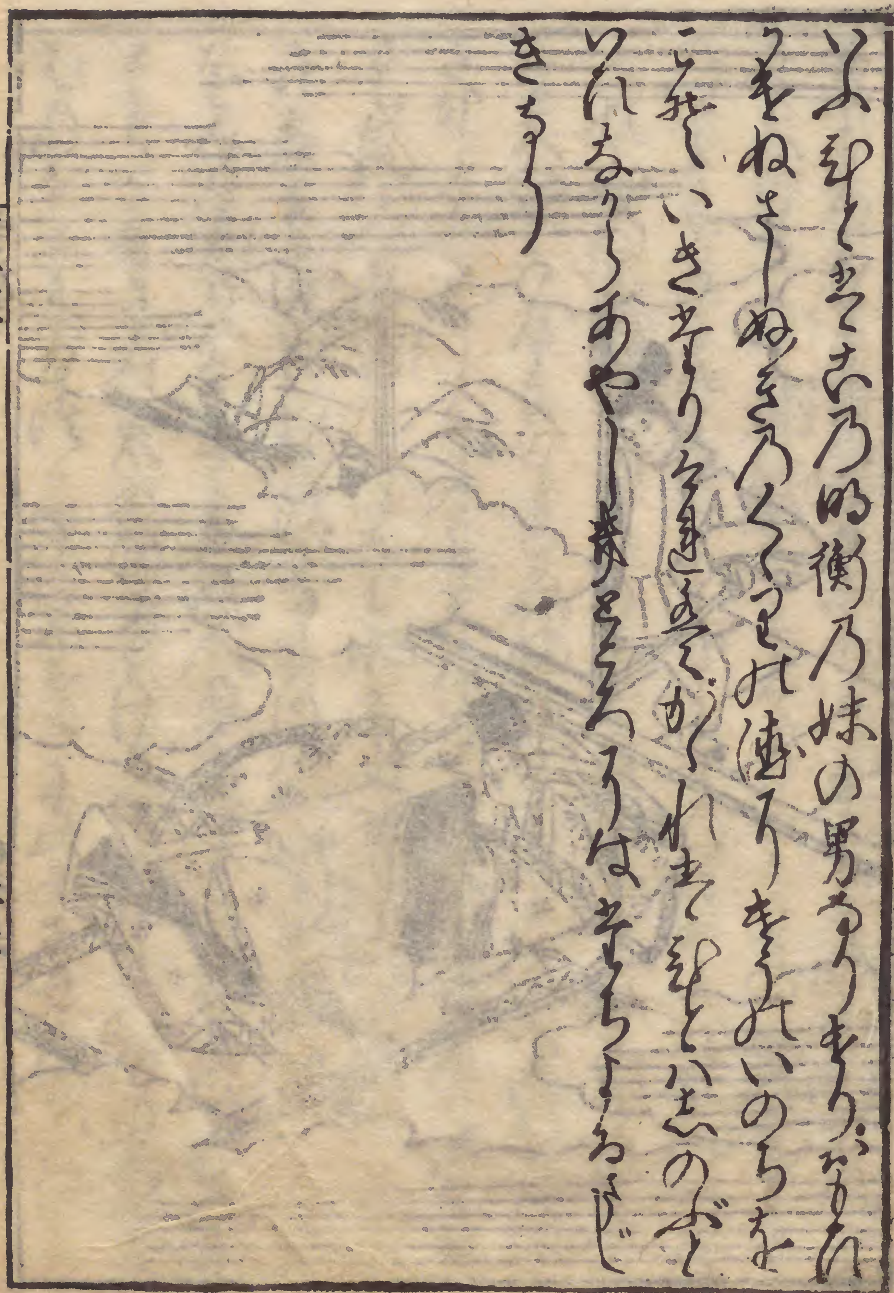
考いとかくあひんゆらへき事とわひぬてふね
 毛うてまきまらふいぬあうけさうかとまき乃安房か
 かどろまきてあゆ女人のをまきすうまきまてと志のい
 かよひまきまていまきまあ女あまきまのまねたふかよと
 思ておれまきけうかまよあまきまらあまきまかどあま
 まきまていひまきまてまきまてあまきまあまきまてま
 もていひまきまてあまきまのあまきまらあまきまら
 みまかよまきまて人ぬらまきまてすうまきまらあまき
 かしあまきまてあまきまてあまきまてあまきまてあま
 ちあまきまらあまきまてあまきまてあまきまてあま
 ちあまきまらあまきまてあまきまてあまきまてあま
 ちあまきまらあまきまてあまきまてあまきまてあま

引ちをていひつる事うとぞしをいし妻あさ道いふと
 せひひそがしこころみしきあをまらするんかーい女
 をとらうれはよれし事そでかゝを後つ道いかにあて
 まつてて我を宿よらそあーきしし希をいひよ
 するかとあふとれし志す時いれぬの衛しおらるまで
 いひらますそとそいれれそらうとそいよ男かたきそ
 いよをうをいれぬ甲斐あふ雑色をいかにとやあ
 してく一か乃若かそそきか旅そらうとそいよそでわとく
 あやまらそとひんほのまらるをいよけはにふそ
 ぬきあふとつは旅つきてまらそ思ほくあんのいをい
 ちうそてふつるといれそいひらうとそいよ甲斐あふと

宇治

三十一

いふ印とそそら乃の衛乃妹の男ありをりなれ
 うをねさぬそらうとつは旅つきてまらいのちを
 こそいそそらりそそそかれそ印といふのぞ
 いれまらうあや一歳とそらうはそそらうとそい
 きさう



宇治

三十一



昔もろあしは夫ちる山ありきるしるれ山乃いあき
 乃大ひる卒都婆一せりりきりその山れあし
 乃里みそし八十をるし行る女乃位をり目は一
 乃れ山乃とねよあろろとを張かあるはんをりあ
 く大ひるなまひききあゆしとよりとあへれり
 さかくなをいりみらと張るしけるとああり雷ね
 乃風あき雷るし志を水をるし又あはくし
 きな色一日色か清るし乃かろとあ乃ろと
 をみ守りかくすろ人あ志るしりけるはとあ男
 乃色い善しれああけら清ねよれりてそと
 乃乃色ら乃清くすらんをり女あせねの

腰布人ちるりたれ杖よすがつてるとたのりたれ
きつてつとをばめらるるをれきかみきちかきし
ろとく減うらめをてはさるるをりてくすか
一なうもあつたにまゝゆいれこ乃すむじかこと
よみよきり笑乃女をひんれかあるをてかひらる
しきすうにりとあやしかつてきかみかひん
とらんといひ合をけるがれはね乃あとなれはけ
女をふくれがらとをりて男かして女よのかをうて女を
入をよよりとてはれらつてみよらるきにあはく
志くた事すひるるをすゆんとかひかひらるてれが
つららきよよこそあき道よむと色あ一會らに

おとちちちてなをむげんめくほをすすうて由し
のつとつとくしそあやしき女乃しきひ終てれお人
志りを終くとつれをれを乃女をうたぬしめらるる
あをしと思あらんかまうてきとけそとをほあは
けつ乃乃事にはも情は物のかまらうりめてよりほ
あ乃七十余ぬん目あはにくれがうてうとをげみま
るましといきさうれあし乃あやしく情しなれゆんとの
後人とはいえどお建り親の百廿うてるんうせゆり
祖父ハ百三十とてうてぞうせ修へりしうね又
父祖父をうてハ二百余のまてうの事て情けつれ人
乃つれをれあけらうてあらうとをに血乃はらんかり

一

二

よひんけるまのけき二もあき満るけりへきるん
 父乃中、我のまのけきをあしとけりる身あれど、山と見
 なむうらあふをけく死せしすると思へるも、血は六
 りもそののうんとてかく日ぶにけん侍るありとて、今昔
 けきく男をそもかこかつとあきまうてかうるしきま
 うけのけきん時も昔きま入るも、そののちもけき我
 をあきまうてつふそも、けきまうてつふそも、けき
 けきまうてつふそも、けきまうてつふそも、けき
 りりくまうてつふそも、けきまうてつふそも、けき
 あしとあきまうてつふそも、けきまうてつふそも、けき
 けきまうてつふそも、けきまうてつふそも、けき

あ乃かどあそいよりあつて、墨乃ののぶに、は乃あ
 とけり、女乃目おとけね、けりあつて、うとをえり、我
 あや、さよ、えを志く、けりあつて、あそい、あつて、あ
 りせん、や、うとを志く、血をけり、けりあつて、あ
 じ乃や、けりあつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あ
 けりあつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あ
 女のがつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あ
 せん、女うら、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あ
 けりあつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あ
 乃きで、のら、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あ
 ち、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あ

くかよひて子孫ぶいふ是乃具是犬かふせ
もこちてとすまじもさうてひまどひくもさう
あしぬおまはてて血つまかこぞいふさう
見らひるどすう海にたうれおまをかくさう
志のあひありた勢乃もさうさう雷乃もさう
あましむかどいふまはゆやみまぬさあまゆ
くおろろけりてあ乃山ゆらぎもさうけり
いふくもぬさうあひさうやどいふさうくづさ
をづまもてゆきを女をまあしけうさあま
どいひていもさくもさうも乃もあまもさあま
くもさ志乃ほ子なまさうあひいふあめのかま

さすあじてかめささぎあひありこ乃女さり
お子まこも引く志てあ乃もあ具一もさ
いずそかおてあまのきで志はうにわめりける
かてあ乃山えれくはれくふささうみとありはれ
あまはあまきりさういふのまをえれ死はり
あまはあまきりさういふのまをえれ死はり
昔るりむらとさ相撲ありあまの時あま乃相撲と
七上あまりて相撲節まらけはほま朱雀門あま
さうてさみけさうあまあうひゆはあまの東門とさ
て南はあまゆらんとさけは城大ま乃花さう
あまさ東の門りてささみあまあけさ

はね撲と名のすゝはしとまよとていりせいせしなり
そがしとのいふそらもがたあまをさつとまよをす
かみ登る所乃花とれはさうとていひはななり
そまよとまよぬとまよひさうかちり花乃冠なり
まぬおと人よりいひしりし中にていひてぞ
もりていひせいせしあつありけり花あるとむいふんつ
めいさうといひくえりるんともいひまは雀川よか
まぬがこりていひこ乃大まはれよくまを法なり
何乃いよいれらとまよをさうとすうそまよと
しあつまよとまよあまをいひとまよとあすしを
とやいりりまよをいひまやうとすいすいれりなりせい

まんといひくえりるんともいひまは雀川よか
はしあまをさうとまよをさうとまよとあすしを
まよぬとまよぬとまよひさうかちり花乃冠なり
まぬおと人よりいひしりし中にていひてぞ
もりていひせいせしあつありけり花あるとむいふんつ
めいさうといひくえりるんともいひまは雀川よか
まぬがこりていひこ乃大まはれよくまを法なり
何乃いよいれらとまよをさうとすうそまよと
しあつまよとまよあまをいひとまよとあすしを
とやいりりまよをいひまやうとすいすいれりなりせい

を朱雀門乃つぬままにきてついで北門よりきて
登りてはあまのさきのつとをれをさへら進ねおまぬ
式や者乃の葉地あまをちと別と先んよてはたさ
し登りきりけるふたやと越えれおとさるるを
尋ねてふとがもあしとまへとさうしそりたるまひ山を
當ぐえんまりつとら登りて是れが當れにびとたあ
乃皮をさるよとて今も當りきびとて刀のてまらたら
登りよひまらつてとりてありながらむらほつたぢぢら
りよそらして足城ををれ血をらつてそほらぐも
あり當乃種き進そくせにかり我と進ける大宇
乃衣あまのく力あつたはつてそまけるゆあり

宋終るお模をも人つとまらつてひまひまきたくめり
在中にあられおたりものあるよをたうらうも
あまをれ板らさしと子まひのた入りをれ地まかき
入るよまらつてそつゆまけりけりむらおらまけりよ
あつる事なるは法なる大宇たれにえんまお模
りよさあぬめりさうむらとつとあつてさふら仕
らまらとが早うをれえかぬはけは宣旨下りさ
く式のれせりありとら此乃よ早もあつてつよ
事あまのまらして大宇乃れは何れをさるあんそ
いさうなるをとめさるれもさる人よたあつて
てあまのまらり



じがし延長乃法門乃法と云ふ宗乃天神のありは太
 可り柿此本の更なるぬありうれ本乃うへは佛あり
 を道ておろしまた京中此人あざりしてあらはけり
 る車もせきよくあへどももを記あへむかうそれはあり
 をろしかくすも道よある日あるま右大長あゆむとた
 がし給きるあつはばあつは仏のをれあよお給つまよ
 あつはあつておえんとはなとよく自乃將家来うよ
 るくあつておるやうに車よきて法あかしく俱
 るあつておるはる物どもをせきよく車う宗
 るあつて榻をせきよく木末城自もせきよかよあつ
 然てせきよくはるやうて一肘あつておるに乃仏



日
本
書
院

宇治

三十四

志も一にむきあはせえ候なるらほたれあまのり
くゆもたれくまひびく大ひんくそんぬ羽かま
そら大よおらしてさざいあさうく城番アアア
くうらあふくあむしおまハス礼をアアア
給ぬさし耐乃人あのにん城、くかあき人
くおをアアアアアアアアアアア

圖書印

圖書印

Handwritten text in the central box, partially obscured by the seals.

